



## 第64期 中間株主通信

(平成30年4月1日～平成30年9月30日)



ヤマシンフィルタ株式会社

証券コード：6240

## 株主メモ

上場市場	東京証券取引所市場第一部
上場日	平成26年10月8日（東京証券取引所市場第二部）
証券コード	6240
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
基準日	定時株主総会については3月31日
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel：0120-288-324（通話料無料） （受付時間：土日祝祭日等を除く 平日午前9時～午後5時） 株式に関するお手続き（みずほ信託銀行） <a href="https://www.mizuho-tb.co.jp/corporate/daikou/index.html">https://www.mizuho-tb.co.jp/corporate/daikou/index.html</a>
株式の売買単位	100株
公告掲載URL	公告は電子公告により行います。 <a href="http://www.yamashin-filter.co.jp/">http://www.yamashin-filter.co.jp/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### 株式等に関するマイナンバーお届出のご案内

2016年1月から、社会保障、税、災害対策の行政手続きにおいてマイナンバーの利用が開始されています。

株式等の税務関係の手続きでもマイナンバーが必要となりますので、株主さまのマイナンバーについては、お取引の証券会社等へお届出ください。

#### 〈上場株式等をお持ちの株主さま〉

証券会社等にて株式等を管理・購入・取引されている場合には、証券会社等へお届出いただく必要があります。お手続き方法など詳細につきましては、証券会社等へお問い合わせください。

※不動産投資信託(REIT)、ETF、JDR等の国内証券取引所にて取引される株式以外の金融商品も含まれます。

#### マイナンバーを記載する主な支払調書

- \* 配当金等に関する支払調書
- \* 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

#### 〈未上場株式をお持ちの株主さま〉

ご所有の株式の発行会社または株主名簿管理人にお届出いただく必要があります。お手続きの詳細につきましては、株主名簿管理人にお問い合わせください。

#### マイナンバー制度について

マイナンバー制度<sup>(注)</sup>とは、国民一人ひとりに配布された番号によって、複数の行政機関に存在する個人の情報を正確に連携させるための社会基盤です。  
(※行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年5月31日法律第27号))

#### マイナンバーの取扱いについて

マイナンバーの取扱いは、法律により厳格な保護措置が設けられており、利用範囲は社会保障・税・災害対策の行政手続等に限定されています。

#### マイナンバーの提供について

2016年1月以降、新たに証券会社とお取引をされる株主さまは、マイナンバーを証券会社に提供する必要があります。2015年12月以前より証券会社とお取引をされている株主さまも、2018年末までにはマイナンバーの提供が必要です。

#### マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま…お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とお取引がない株主さま…下記株主名簿管理人のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-84-0178

## IR伝言板

株主の皆様からのご質問にお答えいたします。

**Q.** 新素材「 YAMASHIN Nano Filter™」について教えてください。

**A.** 「YAMASHIN Nano Filter™」はヤマシンフィルタが量産化技術の確立を世界に先駆けて実現した「合成高分子系超極細繊維」であり、優れた特性と加工の自由度を活かし、多様なニーズに対応が可能な革新的素材です。

太さが200～800ナノ(1ナノは1mmの100万分の1)メートルと、従来のガラス繊維の素材に比べて10倍以上細いのが特徴で、「ペレット」という粒状樹脂の工業原料を「綿あめ」のように軽量で柔らかい超極細繊維に加工したものです。その細さは髪の毛の100分の1程度となっており、フィルタとして利用した場合には、長寿命かつ多くのゴミをろ過することが可能です。

また、他社のナノファイバーの製造方法とは全く異なり、当社の製品は立体的な構造で、繊維内に空気を含む割合が高いため、耐熱性・防音/遮音性に優れており、難燃性という特徴もっています。これらの特徴を活かすことで、建機用フィルタはもちろん、空調機器や農業資材、自動車、アパレルなど、新しい分野への技術応用が可能となります。

「YAMASHIN Nano Filter™」を事業ポートフォリオの拡大の軸とし、建機用フィルタメーカーから、総合フィルタメーカーへの飛躍を目指します。

YAMASHIN Nano Filter 製品ロゴ



**Concept**

ナノレベルの超微細物質を「濾す」  
素材の特性を表現したロゴマークです。  
「水」や「風」など、環境に優しい製品特性をイメージした配色を行っています



代表取締役社長 山崎 敦彦

# 仕渡過事

ろかじにつかふる

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

ここに、第64期中間株主通信(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)をお届けいたします。

当社は建設機械フィルタの専門メーカーとして60年を超える実績をもち、建設機械メーカーとともに性能・品質の向上にまい進してまいりました。今後も健全、着実な事業成長を図ることで、常に最高品質のフィルタを広く社会に送り出し、挑戦しつづける企業を目指していきます。

引き続き、株主の皆様のご期待に添えるよう努力を続けてまいりますので、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年12月

## Q1 平成31年第2四半期(当四半期)の業績と取り組みについてお聞かせください。

**A1** 当四半期における当社グループの主要市場である油圧ショベルを中心とした建設機械市場においては、日本では住宅投資や設備投資は増加しましたが、公共投資は減少し、需要は前年をわずかに下回りました。北米では旺盛な設備需要に支えられるなか、エネルギー関連やインフラ工事関連を中心に、需要の増加が継続し、欧州でもドイツを中心に需要は増加しました。中国では堅調なインフラ投資に支えられ建設機械の需要は増加し、東南アジアでは前年に引き続きインドネシアを中心に需要は全体で増加しました。

このような環境のなか、当四半期においては、総じて堅調な需要を背景に、当社グループの強みである油圧ショベルの作動油回路用フィルタ製品を主軸に、新素材やIoT技術を活かしたフィルタ製品のラインナップの充実を図り、建設機械メーカーの需要拡大に努めるとともに、中国・アジア市場においては補給部品の純正率向上に建設機械メーカーと共同で取り組み、純正部品の採用率向上に努めました。さらには前期より継続的に取り組んでおります利益創出体制の確立を企図した全社プロジェクト「ProjectPAC18」を遂行し、徹底した原価および販売管理費の管理を行うことで、収益性の改善を実現しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は71億27百万円(前年同四半期比14.2%増)となり、営業利益は10億85百万円(同12.1%増)、経常利益は10億76百万円(同14.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億8百万円(同32.6%増)となりました。

## Q2 平成31年3月期(通期)の業績予想と取り組みについてお聞かせください。

**A2** 通期の建設機械市場の見通しは、前回通期の業績予想を公表しました平成30年5月15日時点と比較し、油圧ショベルをはじめとした建設機械需要は、北米や東南アジア市場を中心に各地で想定を上回る見通しであり、当社の売上高も当初の想定を上回る見通しであります。このような外部環境の変化に加え、当社がグループ一体となり取

り組んでおります利益創出体制の確立を企図した全社プロジェクト「ProjectPAC18」により、前回公表した通期の業績予想を上回る見通しとなったため、平成30年5月15日に公表した通期の業績予想の修正を行いました。売上高につきましては、ライン用フィルタは北米および東南アジア市場の堅調な需要に支えられ、前回開示した業績予想に比べ約2.7%の増収となる見込みです。また、補給用フィルタは一部地域を除き、建設機械の稼働時間は各地で安定的に推移しており、需要は堅調に推移することが想定されることから、前回開示した業績予想に比べ約2.7%の増収となる見込みであり、売上高全体では143億円(前年同期比8.6%増)となります。営業利益につきましては売上高の増加および「ProjectPAC18」実施によるコスト削減効果が見込まれる一方、将来の収益獲得のための人材確保、研究開発費用等の発生が見込まれることから、24億円(同25.6%増)、経常利益は23億70百万円(同29.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は17億円(36.0%増)となる見込みです。

## Q3 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A3** 当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置付けたくうえで、財務体質の強化と今後の事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。

上記の基本方針ならびに当社を取り巻く経営環境等を総合的に勘案し、中間配当については1株につき2円50銭とすることとし、期末配当予想については、前回予想より1円増額し、1株につき3円50銭に修正いたします。これにより、年間の配当予想は、6円00銭となり、前年度と比較した場合、当社は平成29年12月1日を効力発生日として普通株式1株を5株の割合で分割しておりますので、当該株式分割を考慮した場合の前年度の年間配当は1株当たり3円60銭となり、2円40銭の増配となる予定です。また、連結配当性向は24.4%となります。

株主の皆様には今後とも末永いご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (平成30年3月31日)	当第2四半期末 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	16,977	17,190
固定資産	3,787	3,937
有形固定資産	1,653	1,800
無形固定資産	412	365
投資その他の資産	1,721	1,771
資産合計	20,765	21,128

(単位：百万円)

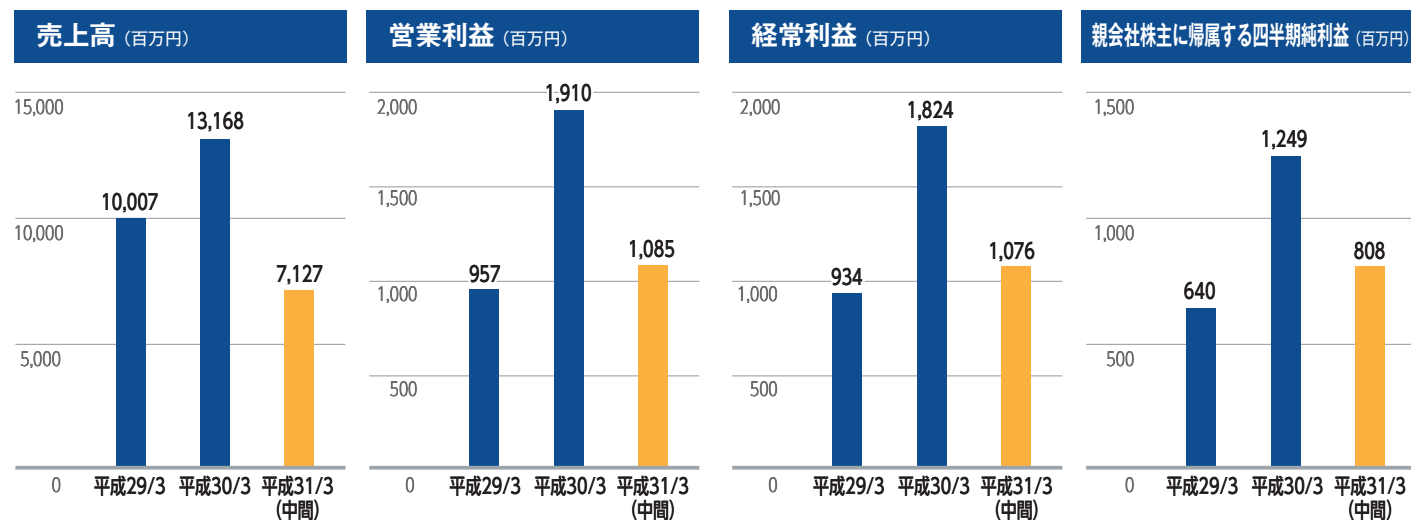
科目	前連結会計年度末 (平成30年3月31日)	当第2四半期末 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,969	2,764
固定負債	797	648
負債合計	3,766	3,412
<b>純資産の部</b>		
株主資本	16,969	17,625
その他の包括利益累計額	30	90
純資産合計	16,999	17,715
負債純資産合計	20,765	21,128

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (平成29年9月30日)	当第2四半期 (平成30年9月30日)
売上高	6,239	7,127
売上原価	3,385	3,751
売上総利益	2,854	3,375
販売費及び一般管理費	1,886	2,290
営業利益	967	1,085
営業外収益	9	11
営業外費用	37	20
経常利益	939	1,076
特別利益	34	—
特別損失	0	4
税金等調整前四半期純利益	974	1,071
法人税等	364	263
四半期純利益	609	808
親会社株主に帰属する四半期純利益	609	808

連結財務ハイライト



News & Topics

IRフェアへ出展しました

8月31日(金)～9月1日(土)に開催された「日経IR・投資フェア2018」に昨年に引き続き出展いたしました。

当社ブースへは2日間で2,500名を超える方々にお越しいただき、大盛況のうちに終了しました。期間中に実施したアンケートでは今後のヤマシンフィルタについて、「期待する」「大いに期待する」とご回答いただいた方が約9割にのぼり、企業説明や大喜利などを通じて当社の成長性をご理解いただく良い機会になりました。

このフェア期間中には『大学生創作落語・大喜利選手権2018』の本選会も行い、東京大学・東洋大学・一橋大学・法政大学の落研(落語研究会)による創作落語・大喜利が披露されました。「ヤマシンフィルタ」をお題に激戦が繰り広げられ、一橋大学が見事優勝、当社よりセブ島旅行を贈呈いたしました。

なお、IRフェアでの当社の取り組みは50ものメディアに取り上げられ、当社の革新的な新素材「ナノファイバー」についてや「ちょっと変わったリクルート施策」の切り口で、当社が大喜利を行うに至った経緯や、当社の求める人材、学生たちへのメッセージなどが掲載されました。

掲載媒体例：「スポーツ報知」、「@DIME」、「Nichee!」、「ログミーファイナンス」など。





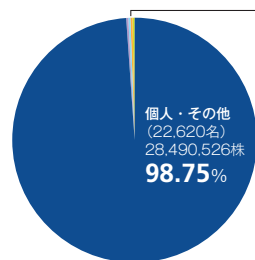
# 会社概要 / 株式の状況

## 会社概要 (平成30年9月30日現在)

商号	ヤマシンフィルタ株式会社 (旧 山信工業株式会社) (英文名称 YAMASHIN-FILTER CORP.)
所在地	〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8 日石横浜ビル16階
設立	昭和31年4月
事業内容	建設機械用フィルタ、産業用フィルタ、 プロセス用フィルタ及び関連部品の製造・販売
資本金	5,434百万円
代表者名	山崎 敦彦
従業員数	単体：145名 連結：593名
認定・取得	ISO9001：2015 (JIS Q 9001：2015) 認証取得 ISO14001：2015 (JIS Q 14001：2015) 認証取得

## 株式の状況 (平成30年9月30日現在)

発行可能株式総数 203,580,000株  
発行済株式の総数 69,190,000株  
株主数 22,907名



株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
株式会社やまびこホールディングス	24,055	34.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,913	7.10
山崎 裕明	3,814	5.51
山崎 敬明	3,814	5.51
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,139	1.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,033	1.49
山崎 敦彦	997	1.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	930	1.34
株式会社三井住友銀行	900	1.30
ヤマシンフィルタ従業員持株会	671	0.97

## 特集

# 仕濾過事 ヤマシンフィルタの歩み

## 第5回 「会社存亡の危機」



創業者 山崎正彦

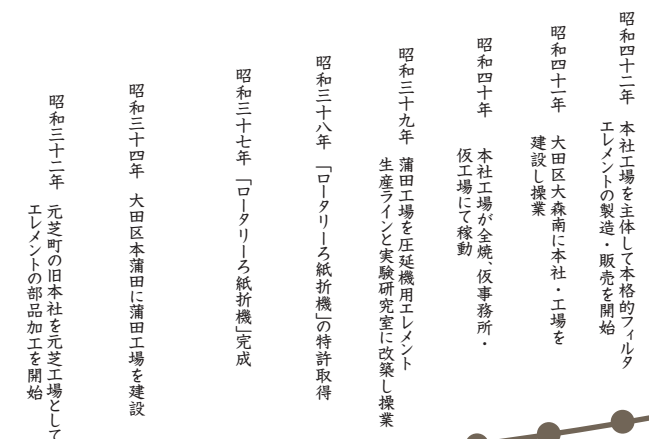
昭和40(1965)年11月19日の未明、当社の存続を大きく揺るがす事件が起きました。当社本社工場が火災で全焼したのです。

そのときのことを述懐し山崎は、「見事に全焼してしまった工場の焼け跡に立って、私は慄然とした。しかし私には、私自身も含めて何十人という社員とその家族の生活がかかっている。何をしておいても再建を始めなければならなかった」と語っています。

火災の2日後、焼け跡に社員を集めた山崎は、①焼け跡を急いで片付けて、仮事務所を設置すること、②当座の作業は借りている倉庫と元芝町の工場で継続すること、③一日も早く仮工場を見つけて操業に掛かるつもりであること、④会社の危機にあたって皆の協力が必要であることなどを説明し、それぞれが当面取り掛かるべき仕事や作業の分担を割り振りました。

そうしたなか、「ロータリーろ紙折機」が使える状態で焼け跡から出てきました。

焼け出された「ロータリーろ紙折機」を見た山崎は、工場の火災に遭って何もかも失ってしまったときだけに、なにくそ、こんな火事くらいでへこたれてたまるかという意地のようなものが腹の底から沸き起りました。そして、このろ紙折機に強く背中を押された気持ちになりました。焼け焦げてすすけたろ紙折機に手を触れ、「こいつはおれが何年もかけてやっと完成させたろ紙折機なんだ。こいつさえあれば、材料や工場は何としてでも工面してみせる」と、決意を新たにしたのでした。



\*

火災が起きた際、締め日の関係で完成品は納入済みだったことなど、小さな幸運もあったといいますが、あくまで内部の問題で外部の営業面では、ふだんとなら変わりなく、製品を期日までに納入しなければなりません。火災に遭ったからといって、期日が変更されるわけではありません。業務再開に向けて山崎が奔走するある日、同じT社の下請けであるT工業の社長が山崎を訪ねてきました。

「困ったときはお互い様です。うちの機械を貸そうではないですか。正直うちもぎりぎりで行っているものだから、昼間はとても余裕ないが、夜だったらうちもほとんど影響ないから使ってもらおうと思って。ぼんと資金援助できればいいけれど、うちみたいに零細企業にはできない話しでね。それぐらいしか思いつかなくて、申し訳ない」。

T工業の社長の温かな思いが伝わってくる申し出に甘えて、当社はT工業の工場でもろ紙折機を稼働することになりました。おかげで米軍特需の納品をはじめ、得意先各社の取引は多少の遅れを出したものの、何とかこなすことができたのでした。

「あの社長は、山信工業に福を運んできたのかも知れない」。のちのち山崎はT工業の社長を思い出すたびにその恩寵を噛み締めたのでした。

仮工場を探し山崎のもとに、当時、当社が懇意にしているT電機の社長から空家工場物件の話が舞い込んできました。山崎が下見してみると、150kwのキューピクルを備え、山信工業にとっては願ったりかなったりの掘り出し物であり、早速契約を交わし、作業を再開することとなりました。多くの方々の協力により契約は無事完了することになったのでした。

\*

会社の存亡に関わる一大危機だったにもかかわらず、あたかも何事もなかったかのごとく、事業を継続できたのは全社員がひとり残らず一丸となって再建に注力したから成り立ったことでした。

そして、当該の火災ですが、最後に退社した社員は火の元の始末をきっちり行ったことがわかっており、調査の結果、消防庁が出した結論は「積み上げた乾燥ろ紙が十分に冷め切っていなかったため、蓄熱、自然発火したのだろう」というものでした。

仮工場は、契約日から1年後には明け渡さなければならない物件のため、ふたたび用地を探し、現在の森ヶ崎(大田区大森南)へ落ち着いたのでした。(続く)